

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒の多様性を尊重し、一人ひとりの成長に寄り添う指導を行うことにより、常に変化する社会の中で、様々なかたちで社会とかかわることができる人を育てます。

多部制単位制の柔軟な教育システム、きめ細かな学習指導と教育相談により「4つの力」を育みます。

1. 学び続ける力：主体的かつ継続的に学習に取り組み、努力できる。
2. 他者と関わり生きていく力：自分を大切に思うとともに、他者を理解し、思いやりの心を持って行動できる。
3. 課題を乗り越える力：さまざまな課題に向き合い、計画を立てて解決できる。
4. 自分の将来を考える力：自らの可能性と生き方を見つめ、将来を切り拓いていくことができる。

2 中期的目標

1 「学び続ける力」

- (1) わかる喜びやできる楽しさを実感できるよう、生徒一人ひとりの課題を把握した学習支援をすすめる。
- (2) すべての生徒が積極的に授業に出席し、基礎学力の定着や主体的に学びあう授業づくりをすすめる。
- (3) 教員間での相互授業見学、授業研究に向けた研修を通して、教員の授業力向上を図る。

学校教育自己診断における生徒の学習満足度 78%以上 (R2 : 77.4%)

2 「他者と関わり生きていく力」

- (1) すべての生徒が安心して学ぶことができるようスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の外部人材との連携により、きめ細かな教育相談体制を構築する。
- (2) 社会生活を営むうえで必要なルールやマナーを習得するとともに、ソーシャルスキルトレーニングを活用して、必要なコミュニケーション能力を高める。
- (3) 自分の個性を大切にしながら、お互いの個性を尊重する思いやりの心を育む。
- (4) ボランティア活動、地域連携などの取り組みにより、自己肯定感・自己有用感を高める。

学校教育自己診断における生徒・保護者の教育相談満足度 78%以上 (R2 : 75.2%)

3 「課題を乗り越える力」

- (1) すべての教育活動において、自ら考える力を育み、ソーシャルスキルトレーニングを活用して、課題を一つひとつ解決する力を高める。
- (2) 生徒一人ひとりの背景を把握し、外部人材も活用しながら自ら課題解決に向かう力を高めるよう支援する。

4 「自分の将来を考える力」

- (1) インターンシップや職場見学を通して実社会を体験する機会を設けるなどキャリア教育を充実させ、将来を見すえた進路指導を行う。
- (2) 生徒一人ひとりが希望する生き方や進路を実現できるよう、入学時から組織的・計画的にキャリアプランニング能力を高める取り組みをすすめる。

学校教育自己診断における生徒の進路学習及び進路情報に対する満足度 70%以上 (R2 : 62.3%)

5 信頼される学校

- (1) 家庭や地域との連携強化をすすめ、本校の教育活動への理解を促進するための広報活動の充実を図る。
- (2) 教職員が、心身共に健康な状態で生徒と向き合うことができるよう、学校における働き方改革の取り組みをすすめる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
1 「学び続ける力」	(1) 安心して学べる学習環境の整備 (2) わかる喜びやできる楽しさを実感できる学習支援 (3) 教員の授業力向上	(1) ・安心して授業を受けることができるようルール・マナーを大切に授業環境を整える。 (2) ・ICT 機器を積極的に活用し、わかりやすい授業づくりを推進する。 ・学習支援クラウドサービスを活用した学習活動を推進する。 ・授業に出席することの大切さのわかる授業づくり、評価の工夫を行う。 (3) ・年に3回、授業見学週間を設定し、授業見学シートを活用する。 ・観点別学習状況評価の観点を持った授業研究をすすめる。	(1) ・生徒向け学校教育自己診断「授業では積極的に学ぼうと思おうような環境が保たれている」70%をめざす。 [62.2%] (2) ・「授業などで視聴覚機器やコンピュータなどを活用している」95%以上。[94.1%] ・「授業はわかりやすく、内容に満足できる」70%以上。 [66.2%] ・「教え方に工夫をしている先生が多い」70%以上。 [68.6%] ・「先生は学習で自分が努力したことを認めてくれる」80%以上を維持。[87.9%] ・「学習の評価について納得できる」80%以上を維持。 [85.7%] (3) ・授業見学週間の授業見学回数を2回以上、授業見学週間以外も含め授業見学シートを3枚以上作成。	
2 「他者と関わり生きていく力」	(1) SC、SSW 等の外部人材との連携による、きめ細かな教育相談体制 (2) 社会生活を営むうえで必要なルールやマナーの習得と SST の活用 (3) お互いの個性の尊重 (4) ボランティア活動、地域連携などの取組。	(1) ・高校生活支援カードを活用するとともに、中学校・家庭・専門人材・福祉等の関係機関との連携を深め、課題を教職員が共有し、外部人材との協力により教育相談体制を構築する。 (2) ・すべての教育活動において、社会のルールやマナーを学ぶ機会をつくりながら、SST をすすめる。 ・SST はその時間だけのものにならないよう、全教職員が SST について理解を深める。 (3) ・自他を大切にすることを育むために、3R を大切にすることを促す。 ・人権学習や外部講師を招いた講演会を企画する。 ・特にネットリテラシーに関して LHR 等で学ぶ機会や講演会を企画する。 (4) ・校内外美化活動などのボランティア活動の企画を行う。 ・近隣保育園との交流の継続。	(1) ・生徒・保護者向け学校教育自己診断の教育相談満足度75%以上。[78.7%] ・生徒向け学校教育自己診断の入学満足度 70%以上。 [82.1%] (2) ・生徒向け学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」70%以上。[80.8%] (3) ・生徒向け学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」70%以上。[80.8%] (4) ・活動の内容、回数、振り返りがどうであったか。	
3 「課題を乗り越える力」	(1) すべての教育活動における SST の活用 (2) 外部人材を活用した支援	(1) ・総合的な探究の時間において計画的に SST を実施する。 ・すべての教育活動における SST の活用のため、教職員が SST への理解をさらに深めるために、教員研修を実施する。 (2) ・教員間で生徒の状況を共有しながら、SC、SSW、CC と連携して生徒支援を行う。 ・外部機関との連携も積極的に行う。	(1) ・総合的な探究の時間において計画的に SST が実施できたか。 ・SST についての教員研修の振り返りがどうであったか。 (2) ・ケース会議や、外部人材との連携により支援が適切に行われたか。	
4 「自分の将来を考える力」	(1) 将来を見すえた進路指導	(1) ・個別面談を丁寧に行い、一人ひとりの興味・関心を引き出し、それぞれの生活スタイルやペースに合わせた受講登録を通して将来について考える力をつける支援をする。 ・通信併修や技能審査・高認など外部単位の案内を丁寧に行う。 ・キャリアパスポートの引継ぎ、作成・管理をすすめる。 ・外部講師、地域人材などを活用し、生徒の進路意識を高める取組をすすめる。	(1) ・生徒向け学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある」60%以上。[67.7%] ・生徒向け学校教育自己診断「学校は、進路についての情報を知らせてくれる」70%以上。[56.9%] ・外部講師、地域人材などを活用した講演会や交流などの回数および内容。[5回]	
5 「信頼される学校」	(1) 広報活動の充実 ア．受験生・中学校・地域向け広報の充実 イ．在校生・保護者向け情報提供の充実 (2) 学校における働き方改革の取組み	(1) ア・HP では入試関係や連絡を掲載。ブログ、Twitter は行事や学校生活について毎日更新する。 イ・HP での PTA 情報、在校生への連絡の充実をはかる。 ・学習支援クラウドサービスを利用した保護者への情報提供に取組む。 (2) ・各種ソフトウェアやクラウドサービスを有効活用し、業務の効率化をはかる。	(1) ・保護者向け学校教育自己診断「学校は教育内容の情報を提供する努力をしている」80%以上。[79.2%] ・保護者向け学校教育自己診断の回収率を50%に近づける。 [25%] (2) ・教職員の時間外労働時間を前年度以下とする。	